

ご協力いただける方、募集中です！



ボランティアさん

こどもと遊ぶのが好きな方、事務局のお手伝いを一緒にして下さる方、お待ちしております。

小児待合室活動日 **毎週月曜日・木曜日、第2土曜日・第4日曜日** 午前11時～午後2時

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更されることがあります。

後援会員さん・ご寄付

この団体の活動は、みなさまの会費とご寄付や助成金で行っています。
ご理解とご協力をお願いいたします。

後援会員…ご入会頂くと「こどものちから通信」をお届けします。

◆個人3,000円/年 ◆団体(1口)10,000円/年

ご寄付…みなさまのあたたかいお気持ちは、
きょうだいさんの笑顔を増やす活動に
大切に活用させていただきます。

◆〈こどものちから〉の1年は、4月から翌年3月までです(´_`)

お振込先

郵便振替番号：00170-7-571697

口座名：特定非営利活動法人こどものちから

お問い合わせ・発行元

「特定非営利活動法人こどものちから」事務局
〒136-0073 東京都江東区北砂 5-20-18-211
TEL:080-6867-6135

メールアドレス: tarumifight@yahoo.co.jp

※独立した事務所がございませんので、ご連絡は上記メールアドレスまでお願いいたします。

Facebook: <https://www.facebook.com/kodomonotikara>

ホームページ: <http://kodomonochikara.org/>

〈協力団体〉大原薬品工業株式会社

株式会社ソフトクリエイトホールディングス
クリフォードチャンス法律事務所

たくさんの個人の方々や企業の方々からご寄付を頂きました。
いつもお心に留めていただきありがとうございます。
代表 井上るみ子



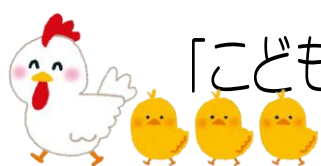
病院に連れて来られても病棟に入れないうだいさんに
遊んでもらう活動をしています。



～皆さんに一足早い夏を～
暑さだけではなく楽しみと癒やしをお届けしたいです。

〈制作者 スタッフ・さいとう はるみ〉

No.25 2023.6月発行



「こどものちから」10歳になりました！！

1997年10月初旬に中学1年生の三男が小児がんと診断されてがんセンター中央病院での闘病生活が始まりました。当時高専の3年生だった長男と中学3年生だった次男はベッドサイドで弟に面会することができました。まだ小学4年生だった長女は人気のない病棟の入口にある長椅子に座って不安と寂しさを抱えながら私を待っていました。

三男を亡くし数年後に家族相談士という民間資格をとった私にそれを活かすために長女が提案してくれたのが「人の居る待合室」でした。

それがきっかけで月に2回、3時間ずつの活動を6年間続けました。活動してみると小児待合室に立ち寄ってくれるお子さんは、病気のお子さんやそのきょうだいさんだけでなく、闘病中の親御さんや祖父母の面会に連れてこられるお子さんもいました。

「様々な立場で立ち寄ってくれるお子さんに遊んでもらいたい。」

そう思ったのが、団体を立ち上げる原動力となりました。団体を立ち上げるとすぐに朝日新聞に「きょうだい児の居場所作りをしている人が居る」と言う紹介記事を掲載していただきました。すると「手伝いますよ。」何人の方がボランティアとして活動に参加してくださいました。

そのおかげで月に2回だった活動が10回に増えたのです！！ 大きな前進でした。

1人で始めた待合室での活動は、たくさんのボランティアさん達に支えられて笑い声の絶えない楽しい空間になりました。おもちゃの除菌や絵本の整理をしながら、立ち寄ってくれるお子さんに「今」必要なことを敏感に感じ取って関わっています。

お子さんが笑うとお母さんが笑います。お母さんの笑顔を見て、お子さんが笑います。

そんな空気のやりとりが、「ここに居てもいいんだ。」という安心感につながっているように感じます。

活動は待合室に立ち寄ってくれるお子さんに遊んでもらうだけでなく、交流会や他団体とのつながり、サポート保育・啓発活動・講演会など1人ではできなかったことがたくさんできるようになりました。

これも皆さまの温かい応援とスタッフ・ボランティアさん達のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

そしてこれからも

「病院に連れてこられても病棟に入れないうきょうだいさんに遊んでもらう活動を続けてまいります。」

NPO法人こどもちから
代表 井上るみ子
スタッフ一同



活動報告

新型コロナウイルス感染症対策のため、残念ながら院内での活動は現在も休止中です。

- ◆ 1月14日(土) こども病院ボランティアの会「コロナとボランティア、これからを考える会」参加
- ◆ 1月29日(日) 子どもを亡くした親の会「稲村ヶ崎の会」参加
- ◆ 2月 5日(日) 「藤田浩子さんのおはなし会」開催
- ◆ 2月23日(木) 「ピヨヨンへび工作グッズ」作成、病棟へプレゼント
- ◆ 5月13日(土) 大妻女子大学ボランティア説明会
- ◆ 5月14日(日) 「第11回こどものちから総会」こどものちから事務局にて実施予定でしたが、書面及び電磁的意思表明により全員の賛同が得られたため、実施せず終了
- ◆ 5月24日(水) 難病のこども支援全国ネットワーク主催「プレイリーダー養成講座」講演
- ◆ 6月 4日(日) 日本対がん協会主催「ジャパンキャンサーサバイバーズデー」ブース出展
- ◆ 6月16日(金) 通信25号 発行

今後の予定

- ◆ 7月 9日(日) 内部研修会「網膜芽細胞腫の子どもを持つ会「すくすく」勉強会保育に向けて」
- ◆ 7月30日(日) 網膜芽細胞腫の家族「すくすく」の勉強会保育
- ◆ 10月24日(火) 上智大学「生と死のケアリング・コロキウム」講演
- ◆ 10月・11月 「クリスマス工場」
- ◆ 12月15日(金) 通信26号発行
- ◆ 2月11日(日) 「藤田浩子さんのおはなし会」

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更されることがあります。

1日も早く収束して、また院内での活動が再開され、お友だちにあそんでもらえる日が来ることを祈っております。



うれしいお知らせ



活動をご理解・ご支援くださる企業や団体・個人のみなさまからたくさんのご寄付やご協力をいただきありがとうございます。

- ◆三菱食品株式会社さま
いつもたくさんのカリンバをありがとうございます。
4年ぶりに再開される網膜芽細胞腫の家族「すくすく」の勉強会保育で子ども達に遊んでもらいます。
- ◆森のライフスタイル研究所さま
いつもカリンバを中継してくださってありがとうございます。
- ◆チクチク会さま
かわいいバジッや折紙・クリスマス飾りの作品をいただきました。
さっそく小児科病棟のお友だちにプレゼントさせていただきました。
- ◆岩手の野崎さま
かわいいチューリップをたくさんいただきました。病棟は春の彩りです(*^o^*)
- ◆ソフトクリエイトホールディングス株式会社さま
筆ペンと画用紙のセットをいただきました。
柔らかいタッチの筆ペンは子ども達の想像力をさらに膨らませてくれることでしょう。
- ◆認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワークさま
レインポールームをいただきました。ベッド上の時間が楽しくなります。



「こどものちから」の活動を体験されて、新しい活動を始めてくださった

～青木佑太さんからのメッセージ～

10周年おめでとうございます。
2019年5月より国立がん研究センターに一馬が転院したことをきっかけにこどものちからさんと出会い、当時2歳だった娘優里南のことをよく預かっていただきました。
おかげさまで夫婦で一馬と時間を気にせず一緒に居られることができ、優里南も楽しく過ごすことができました。本当にお世話になりました。
当時より思っていた「この活動を群馬の病院でもやりたい」という気持ちを行動に移すことができ、院内ではないものの病院から10分ほどの公民館やキャンプ場にてこどもの遊び場を月に2回行っています。
始めて1年半が経ちますが楽しく続けられています。
始めるにあたってこどものちからの井上さんにはたくさん相談に乗っていただき、おもちゃや工作の材料などのご寄付もいただきました。本当にありがとうございました。



2022年度会計報告

<収入の部>		<支出の部>	
科目	金額	科目	金額
会費	270,000	病児や兄弟・家族の支援事業	57,427
寄付金	742,255	兄弟支援に関わる情報発信事業	186,383
難病の子ども支援全国ネットワーク	29,993	病児や家族等を対象とした交流事業	27,920
事業収益(イベント参加費他)	17,000	兄弟支援に関わる勉強会の開催および学びの機会の提供事業	257,095
受取利息	20	その他目的を達成する為に必要な事業	0
雑収入	3707	管理部門	200,388
合計	1,062,975	合計	729,213
		経費外費用(雑損)	0
		当期正味財産増減額	333,762
		前期繰越正味財産増減額	2,247,352
		次期繰越財産額	2,581,114



昨年10月11日、一馬の命日から別の事業をスタートしました。付き添い入院中のパパママを対象にした事業です。
付き添いパパママおうえんキッチンカー、fufufu-soupです。
現在毎週水曜日に群馬県立小児医療センターに出店し、無添加でからだにやさしい野菜をたくさん使ったスープと自然栽培米のお米を使ったおむすびを提供しています。
付き添いパパママは300円引きで食べられる仕組み「おうえんチケット」を作りました。
応援者が300円でチケットを購入し裏面にメッセージを書いてプレゼントすることができるようになっており、お手紙としての機能もあります。
孤独を感じやすい付き添い中にこころもからだも少しでも暖かくなって欲しいと思いはじめました。
おかげさまで多くの方に喜んでいただき、毎週出店を続けることができます。
このような活動に踏み切れたのも家族支援の先駆者であるこどものちからさんが道を示してくれたおかげです。
これからも病児のサポーター(家族)のサポートをしていけたらと思っています。



藤田浩子さんのおはなし会

2月5日(日)午後1時~3時 協働ステーション中央にて



今回も藤田さんの語りが大好きな20名の参加者と15名のボランティアで再開を喜びながら賑やかに楽しい時間を過ごすことが出来ました。

藤田さんは、あやとりに苦戦している参加者に優しく手を取って、楽しく教えてくださいました。

参加者からは「お話を初めて聴かせて頂きました。優しい口調のお話で聞いている皆さんも

優しいお顔になっていました。素敵なお話！ファンになりました。」「久しぶりに小学生に戻ったようで大変楽しかったです。いつまでもワクワクすることが大切と感じました。」「ワクワクしたり、癒やされたり、いつもと違った時間を過ごすことができました。

こどものちからの活動が始まる前からがんセンターの小児病棟でおはなし会をしてくださった藤田さん。そのおはなし会に入院中のお子さんと一緒に話をして聞いてくださったお母さんが今回はボランティアとして参加してくださいました ♡♡♡

次回は、2024年2月ごろに開催したいと思っています。

また皆さまにお目にかかれるのを楽しみにしております。



「ピヨヨンへび工作キット」病棟へお届け

2月5日(日)午前10時~午後4時 協働ステーション中央にて



新型コロナウイルス感染症感染対策のため活動が休止となって丸3年が過ぎようとしています。

病棟にいる子ども達はどのようにしているんだろう？…

病棟の様子がわからない現状で何もできないもどかしさを感じていました。そんな時私達が活動を始めた頃、待合室で子ども達とよく遊んだピヨヨンへびを思い出しました。

これを工作キットにして子ども達に作ってもらって遊んでもらえたら嬉しいね！

思い立ったが吉日。ボランティアさん達に声をかけました。急な呼びかけにもかかわらず、20名の方が集まってくれました。

嬉しいことに小学生の時に待合室で遊んでくれたきょうだいさん達も今や大学生になって参加してくれました！！

懐かしくもあり、頼もしくもあり、時の流れを感じる一日でした。 皆さんテキパキと動いて、30組の工作キットをあっという間に作り上げてくれました。「今日の工作も穏やかな時間を過ごしました。工作の楽しさも子ども達に伝わればいいですね。」

「ピヨヨンへびで遊んだことはありましたが、初めて作りました！！ 子ども達に可愛くしてもらえるのが

楽しみです」等々、嬉しい感想をいただきました。

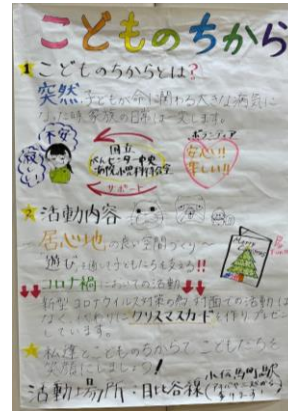
病棟にお届けすると、すぐに入院中のお子さんとピヨヨンへびと一緒に作ってくださった

お母さんから楽しい写真が届きました。遊んでくださってありがとうございます。



大妻女子大学、ボランティア説明会

5月13日(土)午前10時~12時 大妻女子大学にて



8回目となった大妻女子大学児童学科1年生に向けてのボランティア説明会に参加してきました。

昨年から前年度ボランティア参加してくれた学生さんが、助っ人として参加してくださっています。活動に参加しての感想を発表するだけでなく、今年は活動を紹介するポスターも作成してくださっていました。活動を理解しやすく、かわいいイラストも入っていて、すご〜く嬉しかったです♡

新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、社会的には行動制限もかなり軽減されるようになって

きました。今年は病院内での対面活動が再開されて、学生さん達にも待合室での活動を体験してもらえたらと思います。そして病気を持つお子さんやきょうだいさんにも遊んでもらうことでたくさんの気づきと学びを得てほしいと思います。

その学びは、きっと今後に活かせるものと信じています。今年とはどんな学生さんに逢えるのか、とても楽しみにしています♡



公益財団法人日本対がん協会 がんサバイバー・クラブ主催 「ジャパンキャンサーサバイバーズデー」

6月4日(日)午前11時~午後3時 国立がんセンター中央病院研究棟にて



4年ぶりに対面で行われた日本対がん協会主催「ジャパンキャンサーサバイバーズデー」にブース出展をしました。

とても広い会場でしたが、企業の方や患者支援団体など30を超える団体が出展し、後日団体から389名の会場参加者があったと報告をいただきました。「自分と同じがん種の人と出たい」「情報を得たい」というお気持ちで参加される方が多かったそうです。

ブースでは、「こどものちから」の活動を紹介したり、待合室活動で人気のおもちゃやグッズの販売をしました。

活動紹介のポスターを見て、「必要な活動よね。」「早く再開されるといいですね。」「ボランティア参加したいです〜！」「ピヨヨンへびや猫踏んじやったなど、遊びのグッズが参考になりました。」「温かい雰囲気が良いですね。」などなど、嬉しい感想をたくさんいただきました。来場者の中には、活動で知り合った方も複数いらっしゃって、久しぶりに再開できた喜びを分かち合いました。やはり直接お目にかかって意見交換ができるのは素晴らしいと実感しました。

こんな素敵な機会を作ってくれた公益財団法人日本対がん協会がんサバイバー・クラブの皆さまに深く感謝申し上げます。

